

目 次

序 章 グローバル化と政治の危機 杉田 敦 1

- はじめに 1
- 1 領 域 2
- 2 国 民 3
- 3 主 権 6
- 4 危機への対応 8

I

グローバル化の中のデモクラシー

第 1 章 グローバル化時代の集団的自己決定 ---- 押村 高 15

- はじめに 15
- 1 デモクラシーを支えた2つの自己決定 18
- 2 戦後の自己決定ディスコースの後退 20
- 3 「決定の喪失感」が引き起こす問題 22
- 4 領土獲得という自己決定とその限界 24
- 5 自己決定領域の再編に向けて 27
- おわりに 30

第 2 章 資本主義と民主主義はなおも両立可能か ---- 田村哲樹 35

- はじめに 35
- 1 「資本主義と民主主義」の危機をめぐる諸言説 36
- 2 両立（不）可能性のいくつかのシナリオ 44
- おわりに 58

第3章 戦争と難民の世紀からテロリズムの世紀へ

——国際美術展における政治とセキュリティの表象 ---- 五野井郁夫 65

はじめに——安全保障化言説の対象としての難民 65

- 1 難民とは何か 66
- 2 国際美術展と難民
——ヴェネツィアとベルリンのビエンナーレをめぐって 69
- 3 戦争概念の変容以前 72
- 4 テロリズムと戦争概念の変化 74
- 5 近代的な価値観を徹底して守ること 76

第4章 代表制、参加、民主主義の民主化

——自由民主主義体制の危機 千葉 眞 81

はじめに——自由民主主義体制の現在 81

- 1 自由民主主義と参加民主主義 84
 - 2 デモクラシーの根源としての参加民主主義 90
 - 3 シェルドン・S. ウォリンと今日の新しい革命構想 95
 - 4 代表制とシティズンシップの現在 103
- むすびにかえて——信託型の代表制にむけて 106

第5章 リベラル・デモクラシーを下支えする「公共精神」 をどこに求めるか

——新自由主義的世界におけるネイションの規範的重要性の再評価
..... 白川俊介 115

はじめに 115

- 1 リベラル・デモクラシーの機能不全 118
- 2 リベラル・デモクラシーの政治枠組みと文化との関係性 121
- 3 新自由主義における「営利精神」の過剰と「公共精神」の減衰 123
- 4 「公共精神」を育む基盤となる「自発的結社」? 125

- 5 「非自発的結社」としてのネイションの規範的重要性
 ——「公共宗教」論を補助線として 127
- むすびにかえて——「エリートの反逆」に抗して 131

II

グローバル化の中のセキュリティ

第6章 領土と主権に関する政治理論上の一考察

——暴力、人民、国連をめぐるアポリアに抗して ---- 前田幸男 139

はじめに 139

1 領土 140

2 主権 148

おわりに——揺らぐ領土概念と主権概念の中で平和を創ることとは 159

第7章 ポスト・ヘゲモニー時代の国際秩序思想

——地政学的思考の陥穽 ----- 高橋良輔 167

はじめに 167

1 ポスト冷戦秩序のアメリカ的性格 168

2 「ポスト・アメリカ」から地域主義の多重再生へ 171

3 現代地政学におけるライン思考 175

4 古典地政学の呪縛 182

むすびにかえて 186

第8章 例外状態における正統性をめぐる政治

——セキュリティによる統治／民衆による支配 ---- 山崎 望 193

はじめに 193

1 国民国家システムにおけるセキュリティとデモクラシー 194

2 セキュリティの変容——日本を事例に 196

3 危機のデモクラシー 201

4	デモクラシーの変容	205
5	セキュリティとデモクラシーの新たな節合に向けて	207
	おわりに	211

あとがき

人名・事項索引